

I－3．校地、校舎等の施設その他学生の教育研究環境（キャンパス概要）

I-3-1. 講義室、演習室、学生実習室等の概要

学部学科	種類	室数
工学部創生工学科	講義室	32
	演習室	54
	実験実習室	119
	情報処理学習施設	1
	語学学習施設	1
看護学部看護学科	講義室	8
	演習室	5
	実験実習室	5
	情報処理学習施設	1

・全学共通

図書館：3,764 m²

体育館：2,854 m²

I-3-2. 研究用設備・施設

・研究設備施設は大型の装置に観るように実験装置を主体としたものが充実しており、本学と同規模の他大学と比較しでもその環境は整っている。実験棟はそれぞれ大きなものが3つ、中規模なもの2つ、小規模なもの1つを保有しており、学生実験と研究活動に大きく寄与している。また、教員の研究室の広さは多少の差はあるが必要な広さが確保されている。

・研究活動のさらなる充実をはかるために、研究教育活動を支援するための3つのセンターがある。情報科学センターは1T教育の中心的な存在である(詳しくは後述)。総合科学センターは平成10年に開設され、研究計画、研究プロジェクトの企画等の研究活動の管理を行っている。総合研究センターは栃木県、群馬県、埼玉県にまたがる両毛地域の産業と共同して地域に密着した研究活動が大きな特徴であり、産、学、官の共同研究や多くの委託研究が行われている。この両毛地域は中小企業が多く、これらの企業における製品開発や研究に大学の研究室が積極的に関与できるような体制が整っており、具体的な成果が上がっている。さらに、人間に優しい工学という本学の基本的な考え方に基づいて、睡眠の人間工学的な研究を専門に行う研究施設として平成15年から睡眠科学センターが開設され

た。ここでは、心の問題から寝具の開発まで、その活動は心理学、生命科学、情報工学、人間工学に及んでいる。

・工学研究科機械工学専攻に煙火学専修が平成 18 年 4 月開設された。通称花火大学院と呼ばれている。全国的にも花火を研究する大学院は非常にユニークであり、本学の教育研究活動の特徴のひとつになっている。花火は危険な火薬類なので火薬類取締法によって取り扱いが厳しく限定されており、花火業者の仕事には花火師のほかにも花火大会の企画・運営や花火・火薬の製造、資材調達・海外との輸出入業務などがあるので、高い学識を備えた花火の専門家を育成するために開設された。改修された合同実験棟に研究室、実験室がある。

I-3-3. 体育施設およびクラブ活動のための施設

・屋内施設として、体育館があり、館内には体力測定室が設けられている。その他に、クラブ活動のためのクラブハウス、柔道場、剣道場、弓道場、空手道場がある。屋外施設として野球場 1 面、フットボール場 1 面、サッカー場 1 面、テニスコート 5 面、ゴルフ練習場 (5 打席)、そして多目的グラウンド等がある。これらは学生の課外活動にも利用されている。野外の体育施設は面積の面から見るとかなり広い面積を保有している。

I-3-4. 図書館

・図書館は、総床面積が 3,764 m²あり、蔵書数は 16 万 7 千冊、また、教育・研究に関する専門雑誌の定期刊行物は 1,700 種類以上を所蔵している。教育研究活動の中心と位置づけられている図書館には書庫と閲覧室のほか、AV コーナー、レファレンスルーム、ブラウジングルームなどがあり多様な目的に細かく対応できるようになっている。また、電子図書館化も着実に進み、CD-ROM 検索や各種のオンライン検索が完備されている。

I-3-5. 情報技術 (IT) 教育施設

・急速に発展する IT の教育研究に対応するために、情報科学センターが設置されている。これは 3 階立ての総床面積 1,794 m²の IT 関連の専用の建物である。

I-3-6. 教育研究活動支援施設

- ・ 学習支援室
- ・ 風と光の広場およびミニミニ博物館

I-3-7. 福利厚生施設

- ・ 食堂（床面積 約 3,237 m²）
- ・ 女子専用ラウンジ
- ・ 同窓会館
- ・ 合宿施設
- ・ クラブ活動用の部室棟
- ・ 風と光の広場等
- ・ 保健室
- ・ 学生相談室
- ・ 体力づくり相談室
- ・ 女子寮